



「自己調整する力」

副校長 後藤 茂敦

現在開催中の FIFA サッカーワールドカップ。今回の大会では、イングランド・プレミアリーグ ブライトンに所属する三笥薫選手の活躍が期待されていました。残念ながらけがの影響によりピッチ上での姿を見ることはできませんでしたが、これまでの活躍は日本中に大きな感動を与え、今や日本を代表するトッププレイヤーとなっています。その三笥選手は、今回のワールドカップ以前に大きな挫折を経験していました。

2021年の東京オリンピック後、三笥選手は「ワールドカップでは、主力として活躍する」という強い思いを抱いて海外へと渡りました。しかし、その翌年のカタールワールドカップアジア最終予選のメンバーから落選するという悔しい経験を味わっています。当時のインタビューで、「自分には何が足りないのかを突きつけられた。でも、ここで終わるわけにはいかない。」と語り、自身のプレーを徹底的に見つめ直したそうです。その後、「三笥の1ミリ」として語り継がれる活躍を見せ、メディアにも大きく取り上げられました。当時、あるコメンテーターが三笥選手のことを「天性のスピードと才能の塊」と称していました。しかし、これまでの足跡をたどると、「才能」の一言で片付けられない並々ならぬ「努力の質」があったことに気付かされます。ただがむしゃらに走るのではなく、「どの角度で仕掛けると相手を抜けるのか」「自分の身体をどう動かせば一番効率的なのか」を大学時代から論文を書くほど研究し、質の高い練習を積み重ねながら、自らの課題と向き合い、絶えず自己調整を続けていました。

現在、二小では「自己決定・自己調整できる児童の育成」を主題として研究を行っています。課題をどのように解決するか、自ら選択・決定し、思うように解決できなかった場合は「どうすればうまくいくのか」を考え調整する。

こんな子どもたちの姿を目指して研究を進めています。先日実施した社会科の研究授業では、「学習目標・計画を設定する」→「必要な資料を選択しスライド等にまとめる」→「自分の学びを振り返る」→「振り返りを次時の学び



につなげる」というように、自己調整しながら学習を進める姿が見られました。ICT機器の使用で友達の学習進度や状況が可視化されたことで、同じ課題に取り組んでいる友達と情報を共有したり、先に進んでいる友達からアドバイスをを受けたりしながら課題に取り組んでいました。自己評価や振り返りを大切に、「うまくいかなかったこと」や「分からなかったこと」を改善しながら成長していく子どもたちの姿を大切にしています。

三笥選手は、自らの課題と向き合い、自己調整を重ねることで夢を実現してきました。子どもたちもまた、日々の学習や生活の中で「うまくいかなかったら工夫する」「よりよい方法を考える」という経験を積み重ねながら成長していきます。学校ではこれからも、一人一人が自ら考え、自己調整しながら学び続ける力を育ててまいります。ご家庭におかれましても、子どもたちへの温かい励ましをお願いいたします。